

大学・公的研究機関と車載用蓄電池の開発・実用化で豊富な実績を有する蓄電池メーカー、エンドユーザーとなる自動車メーカー等の連携体制により、学のサイエンスと産のエンジニアリングの知見を融合させることで、技術的なブレークスルーの創出を目指す。

実用化の目標時期である2030年までのリードタイムを踏まえると、2020年代前半までに革新型蓄電池の有望な電池タイプ・構成材料を絞り

込んでセルの基本仕様を固め、電池モジュール・システムの開発フェーズに移る必要があり、そのため、本事業終了後に企業における実用化開発が可能となるところまで研究フェーズを移行させることを目指すとしている。

プロジェクト名：革新型蓄電池実用化促進基盤技術開発 (RISINGII)、事業期間を2016年度～2020年度とし、事業総額は150～180億円を予定している。

## 4月の銅マーケットレポート及び5月の見通し(上)

### 橋本アルミ(株) 橋本健一郎氏



#### 予想レンジ

LMEセツル	4700-5000ドル ☂ 弱い
建値	540-590円 ☂ 弱い
為替	105~110円 (1か月間TTM) ☂ 円高

#### ◆月間のドル/円レート(TTS)

113.52 → 109.36(円)

#### ◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると自動車生産台数は前年比+1.2%の88万9501台であった。

#### ◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると自動車販売台数(軽除く)は前年比+7.2%の21万2713台。

#### ◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると新設住宅着工戸数は前年比+8.4%の7万5744戸であった。

#### ◆貿易関連指標

##### 輸出

財務省貿易統計によると輸出は前年比で電気銅が-3.2%の5万5218t、スクラップが+0%の2万4918t。

##### 輸入

輸入は 電気銅が前年比-38.6%の2150t、スクラップ +39.2%の9760t

#### ■前月の国内指標

日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば前年比-1.6%の6万8610t

日本電線工業会発表の出荷速報(推定)

銅電線出荷量は、前年比-2.5%の6万900tであった。

#### ■概況

##### 【自動車生産】

3月の四輪車生産台数は889,501台で、前年同月の878,577台に比べて10,924台・1.2%の増加となり、4ヵ月ぶりに前年同月を上回った。

3月の車種別生産台数と前年同月比は次のとおり。

乗用車-757,605台で17,369台・2.3%の増加となり、4ヵ月ぶりのプラス。このうち普通車は462,727台で35,381台・8.3%の増加、小型四輪車は158,365台で18,266台・13.0%の増加、軽四輪車は136,513台で36,278台・21.0%の減少。

トラック-119,980台で6,011台・4.8%の減少となり、11ヵ月連続のマイナス。このうち

#### ■概況

前半は、17日のドーハ会議での生産凍結合意に対する不透明感も手伝い相場を圧迫したこと、米フィラデルフィア地区連銀総裁、追加利上げに踏み切る前に米経済が堅調でインフレ2%に向かっている証拠が必要、景気次第で年3回の利上げは可能と発言などのマイナス材料もあったが、原油がロシアとサウジが産油量据え置きで意見が一致したとの報に反応し急伸したこと昨年11月30日以来の高値の42ドルまで上昇した事、3月の銅および銅製品の輸入量は57万トンで前年比39%増で単月輸入量としては過去最高。などを受けてUP。

4月15日時点で4880.5ドル(セツル)と月初価格より25ドルUPの前半締めとなった。

後半は、クウェートの石油労働者によるストライキが3日目に突入。供給面で影響が出ていること、ドル安背景からUPなどのプラス材料もあったが、17日のドーハ合会が不調に終わったことを受け夜間取引開始直後は8日以来の水準まで急落した事、ECBドラギ総裁、ユーロ圏は継続的な成長が今後も続き、金融状況は幅広く改善と認識。金融政策は長期にわたり緩和的と発言との発言を受けてユーロ安ドル高などのマイナス材料を嫌気しDOWN

5月13日現在、後半スタート価格から50ドルDOWNの4748ドル。建値59万円となった。

#### ■前月の経済指標

普通車は50,180台で4,908台・8.9%の減少、小型四輪車は33,049台で568台・1.7%の増加。軽四輪車は36,751台で1,671台・4.3%の減少。バス-11,916台で434台・3.5%の減少となり、4ヵ月連続のマイナス。このうち大型は1,088台で37台・3.5%の増加、小型は10,828台で471台・4.2%の減少。

3月の国内需要は635,901台で、前年同月比

8.6%の減少であった。

(うち乗用車532,468台で前年同月比9.3%の減少、トラック100,754台で同5.0%の減少、バス2,679台で同5.1%の増加。)

輸出は前年同月比1.8%の増加。(実績)

※後半は来週以降の紙面にて掲載させていただきます。

## 第95回アサヒGF会開催

アルミリサイクル総合メーカーのアサヒセイレン株式会社(本社=大阪府八尾市、代表取締役谷山啓造)は5月14日(土)に名阪ロイヤルGCにおいてアサヒGF会を開催した。同会は、商社、原料問屋、ユーザー、同業メーカー各社が集い、日頃の懇親を図るとともに心身のリフレッシュを目的として1980年3月から開催され、今回で第95回を迎える。今回は総勢30名が参加し覇を競った結果、江面 勉(アサヒセイレン

(株)常務執行役員)が優勝した。主な入賞者は次の通り。

▽優勝・江面 勉 GROSS : 85 (44.41) NET : 73

▽2位・香椎直樹氏(株加藤昌商店/取締役)

▽3位・谷山渉力(アサヒセイレン(株)/東京営業本部次長)

▽BB・豊川 欽熙氏(株ユタカ/代表取締役)

▽BG・多田 宗弘(美原アルミ工業(株)/代表取締役) GROSS : 82 (40.

42)

## フジクラ増収で営業利益3割アップ 円安効果やFPCの販売好調が寄与

フジクラの16年3月期連結決算は、為替の円安推移や、エレクトロニクスカンパニー関係の製品の需要増が寄与して、売上高が前期比2.6%増の6785億2800万円、営業利益が30.1%増の326億3200万円、経常利益が16.8%増の246億2900万円、当期純利益が7.2%減の113億1700万円となった。セグメント別の業績は次の通り。

▽エネルギー・情報通信カンパニー=エネルギー事業部門では銅価下落などの影響で減収となったが、情報通信事業部門が為替の影響で好調だったため、売上高は3641億円(0.6%減)、営業利益は157億円(34.1%増)。▽エレクトロニクスカンパニー=主にFPC(フレキシブルプリント配線板)が好調だった。売上高1611億円

(14.7%増)、営業利益120億円(74.0%増)。

▽自動車電装カンパニー=中国顧客の減産などの影響から、売上高は1358億円(2.4%減)、営業利益は23億円(45.1%減)。▽不動産カンパニー=同社の旧深川工場跡地再開発事業である「深川ギャザリア」の賃貸収入などで、売上高107億円(0.4%増)、営業利益53億円(5.7%増)。

17年3月期の連結業績予想は、FPCを中心にエレクトロニクスカンパニーの増収などで、売上高6900億円(前年度比1.7%増)、営業利益280億円(14.2%減)、経常利益250億円(1.5%増)、当期純利益150億円(32.5%増)としている。

## タツタ電線決算 営業利益17.7%減 電子材料事業の販価低下が影響

タツタ電線の16年3月期連結決算は、売上高が前期比4.6%減の525億1000万円、営業利益が17.7%減の44億2400万円、経常利益が16.6%減の45億5700万円、当期純利益が11.9%減の29億5200万円となった。セグメントごとの業績は次の通り(カッコ内は前期比)。

▽電線・ケーブル事業=電力向け需要が回復基調となったが、建設・電販関連向けが販売減となったことや、銅価格が前年度比で低位推移したことが影響した。売上高は304億8800万円(1.8%減)。引き続き販売構成の改善や操業の効率化に努めたことで、営業利益は8億9000万円(69.9%増)となった。▽電子材料事業=主要製品のスマートフォン等携帯端末向け機能性

フィルムの競争環境激化に伴う販売価格低下により、売上高は203億6400万円(9.6%減)。また、販売価格低下や、仙台工場の買収・立上げのための一時的費用の計上等で、営業利益は41億7300万円(21.8%減)となった。▽その他=機器システム事業、環境分析事業、光部品事業は概ね堅調に推移。医療機器向け製品の販売も伸びた。売上高は16億8200万円(14.5%増)、営業利益は2億800万円(1.6%増)。

17年3月期の連結業績予想として売上高2.9%減の510億円、営業利益9.6%減の40億円、経常利益12.2%減の40億円、当期純利益6.9%減の27億5000万円としている。